

フロイントレポート

FREUND REPORT

株主の皆さまへ

2017年2月期 | 2016.3.1 ▶ 2017.2.28 |

01 第7次中期経営計画の概要

02 社長インタビュー

05 **特集 1**

次世代錠剤印刷装置(検査機能搭載型)

「TABREX Rev.」

(タブレックス・レボ)

06 **特集 2**

医薬品用添加剤事業に
おける新たな取り組み

07 **特集 3**

新たなグローバル戦略を
スタート

08 事業概況

09 財務情報

10 株式情報/会社情報

証券コード 6312

フロイント産業株式会社



ONE FREUND

第7次

中期経営計画

私たちのVision

フロイントグループは、
世界中の人々の医療と健康の未来に貢献し、
豊かな生活と食の安全・安心を支える
技術を生み出し、育成していくことを目指します。

第7次中期経営計画の概要

(2018年2月期～2022年2月期)

フロントグループが大切にしている価値観

ONE FREUND

特別な価値創造

それぞれの分野、
事業でNo.1を目指す

Number
ONE

Only
ONE

Be
ONE

完全顧客視点

顧客、社会にとって
Only Oneの存在を目指す

ネットワーキング

グループが
ひとつになる

基本戦略

顧客の真のニーズに技術力をもって応え、

持続的に利益成長をする経営構造の実現

を目指す

飛躍期

成長基盤の構築

2018

2019

2020

2021

2022

※各年2月末に終了する期

重点施策

新規事業創出と既存事業の強化

基盤構築

「ハード(製品群)とソフト(製剤技術)」の融合
グローバル・オペレーション体制の強化

売上高	営業利益率	ROE
300 億円	10.0%	8.0%

5年後の経営目標

- ① 機械・化成品事業のさらなる収益力向上
- ② 新規製品の開発
- ③ 第3の柱となるサービス事業の基盤確立
- ④ 業務プロセスの抜本的改革

企業理念

『創造力で未来を拓く』

経営ビジョン

フロイントグループは、世界中の人々の医療と健康の未来に貢献し、豊かな生活と食の安全・安心を支える技術を生み出し、育成していくことを目指します。

代表取締役社長

伏島 巖

Iwao Fusejima

ONE FREUND

『ONE FREUND』で
新たな価値を創造しよう

Q

『Change & Challenge(変革と挑戦)』のスローガンのもと、『一体感ある経営』を標ぼうしてきた第6次中期経営計画ですが、その最終年度である2017年2月期(以下「当期」)のレビューをお願いします。

A

<第6次中計期間のレビューについて>

初年度の2015年2月期時点では、国内医薬品分野の市場伸張に過度に依存しない成長体質構築を目標に掲げ、海外市場の本格的取り込みやグループ資源の有効活用を通じた製品ラインナップの拡充などに向けた舵取りに努めました。

そこへ、2015年6月に政府が閣議決定した「骨太方針」により、2020年度に向けて国内ジェネリック(以下「GE」)医薬品の数量シェア目標が80%に引き上げられたことに伴い、「GE80%時代」に向けた設備需要が高まり、機械部門を中心に、国内医薬品分野での引き合いが大幅に拡大いたしました。

ボーダレスな事業推進で、次世代に向けた経営基盤を築いてまいります。

中計策定当初の想定を超える特需の取り込みに、ヒト・モノ・カネの経営資源の多くを集中せざるを得なくなり、新たな成長基盤構築に向けた取り組みに遅れが生じた3年間となりました。

ただ、「新製品開発の加速」や「製品ラインナップの拡充」は未実現の課題として残りましたが、アジア新興国でのベンダー開拓や、機械部門で医薬品分野を担当するグループ会社の米国FREUND-VECTOR CORPORATION(以下「FV社」と)非医薬品分野で粉碎装置を主力に展開する国内フロイント・ターボ株式会社(以下「FT社」)による連携がスタートしたほか、当期末に次世代錠剤印刷装置(検査機能搭載型)「TABREX Rev.(タブレックス・レボ)」の初の受注が実現いたしました。

<2017年2月期の連結業績概要について>

このような環境のもと、当期は医薬品分野において国内機械事業が引き続き好調に推移したほか、国内化成成品事業でもGE医薬品向けに機能性添加剤の販売が好調でした。また、北米市場での機械販売の好調を反映し、FV社が現地通貨ベースで過去最高の業績を達成したほか、非医薬品分野では、FT社の営業強化が奏功し、新製品販売が拡大いたしました。

これらの結果、当期の連結業績は前期比で増収増益となりましたが、海外展開や新製品投入の遅れから、第6次中計目標の連結売上高230億円、同営業利益23億円を達成するには至りませんでした。

財務面では、FV社とFT社の決算期を12月末から2月末に変更し、当期よりグループ全社の決算期を統一しております。

Q 『ONE FREUND』をグループの価値観とする第7次中期経営計画(2018年2月期～2022年2月期)について聞かせてください。

A <ビジョン策定に至った経緯>

国内医薬品分野では、今後1～2年はGE80%特需を享受できる可能性は高いものの、少子高齢化や新薬の減少といった構造的課題を抱える市場の成熟化は一層進み、競争がさらに激しくなることが予想されます。一方海外では、医薬品の最大消費国である米国や欧州諸国に加え、中国やブラジル、インド、ロシアなどの医薬品新興国が台頭しつつあり、当社グループが開拓・深耕すべき市場が拡大しております。

このような事業環境への認識のもと、「ハード(製品群)とソフト(製剤技術)」の事業基盤を有する当社グループが社会の公器として何をすべきか——この点を明確にしたビジョンを新たに策定し、世界中の人々の医療と健康の未来に貢献するとの方向性を定めました。

<グループの価値観『ONE FREUND』>

2018年2月期(以下「今期」)から2022年2月期を期間とする第7次中計の策定にあたり、当社グループが大切にしている価値観として『ONE FREUND』、すなわち①「特別な価値創造を担うNumber One」、②「完全顧客視点のOnly One」、③「ネットワークによりひとつになるBe One」を謳いました。

これらの価値観に基づき、グローバル市場において「持続的に利益成長をする経営構造の実現」を図るため、今期から2020年2月期の3カ年を「成長基盤の構築」の期間、2021年2月期から2022年2月期の2カ年を「飛躍」の期間と位置付け、当社技術を基盤とした新規事業の創出と既存事業の強化を進めてまいります。

特に成長基盤構築の3カ年では、「ハードとソフト」の融合による事業創出を戦略的に進めるとともに、その要となるグ

ローバル・オペレーション体制の強化を図ってまいります。これらの取り組みを通じ、最終年度には連結売上高300億円、営業利益率10%以上、ROE8%以上を目指します。

Q 次世代の経営基盤構築が本格的に始動する2018年2月期の重点施策について教えてください。

A <新規事業創出①『ONE FREUND』によるグローバル展開の強化>

当社グループとして、日本市場はフロイント産業が中心となり、日本以外の市場はグループ全社が一丸となって開拓する経営基盤を構築してまいります。

医薬品分野では当期より、インドやその他のアジア諸国において、フロイント産業とFV社が連携した機械の営業活動を始めておりますが、今期からは、マーケティング・設計開発・製造・販売・サービスにわたる一連のサプライチェーンを『ONE FREUND』のもとに構築し、ボーダレスな事業創出につなげる取り組みを本格化いたします。

さらに、各国市場のニーズに応じた製品開発体制を強化するとともに、機械中心であった展開を医薬品添加剤の領域にも広げたいと考えております。

▶グローバル展開については、P.7特集3をご参照ください。



<新規事業創出②「ハードとソフト」の融合強化>

医薬品添加剤事業では、「ハードとソフト」の融合を活用し、お客様である製薬メーカーの新製品開発をご支援し、お客様メーカーからの一部製造工程を受託するという新たな事業モデルの確立を進めております。

このような当社独自の事業展開を加速するため、今期より、機械と添加剤に分かれていた医薬品分野の国内営業部隊を一本化いたしました。これにより、「ハードとソフト」両方を理解するハイブリッドな人材の育成を図り、将来的には、「ハードとソフト」の融合事業を世界で展開できる営業基盤の構築につなげたいと考えております。

▶当事業モデルについては、P.6特集2をご参照ください。

<新規事業創出③新製品開発・新市場開拓>

医薬品分野では、「TABREX Rev.」の拡販があります。国内市場で強い引き合いがあり、今期すでに数台の受注をいただきました。本年5月にドイツで開催された国際展示会に出展後、フロイント産業とFV社の連携による海外展開に着手いたします。また、本年6月末開催予定の『インターフェックス ジャパン』展では、「TABREX Rev.」の機能を応用した装置の出展を予定しております。

▶「TABREX Rev.」については、P.5特集1をご参照ください。

非医薬品分野では、食品品質保持剤の生産能力増強を図るとともに、FT社による産業用途向け市場開拓を引き続き進めてまいります。

研究開発では、連続造粒装置「Granuformer(グラニューフォーマー)」のグローバルモデルの市場開拓をフロイント産業とFV社の連携で進めております。また、フロイントグループのコア技術を活用する新たな領域として、FT社とフロイント産業の製品をシリーズ化し、リチウムイオン電池の電極材の製造工程全般をカバーする市場開拓を始めております。

<重点施策：既存事業の強化>

GE特需を取り込んだ後の国内機械事業は、厳しい市場環境に直面する可能性があります。成熟化する市場での既存事業の方向性としましては、協力工場を含めたファブレス生産、ならびに製品開発にかかる体制を抜本的に見直し、より競争力のあるものづくりを推進しなくてはなりません。今期に体制構築を加速したのち、新体制による製品開発・生産のもとで、既存機械装置の後継機の開発につなげる計画です。

Q

最後に、株主の皆さまに向けてメッセージをお願いします。

A

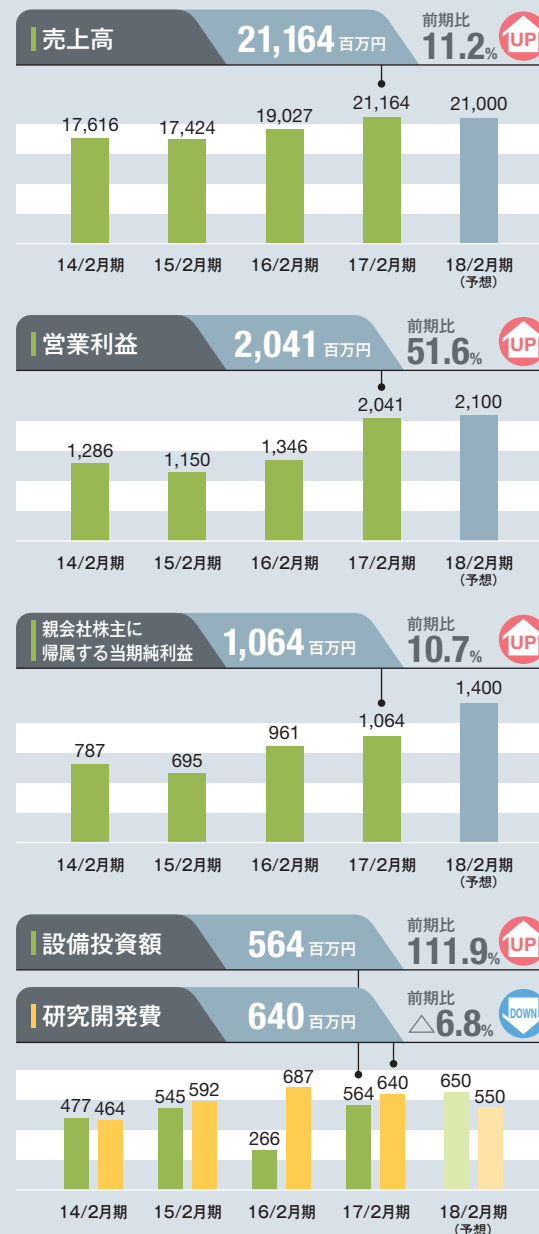
国内医薬品分野でGE特需による設備投資が一巡した後の事業環境を考え、フロイントグループはその事業構造変革に着手しております。第7次中計の推進は、当社グループが次世代の成長基盤を構築するうえで、非常に大きなチャンスです。

幸いなことに当社グループは、設立当初より積み上げてきた「ペンとインク」「ハードとソフト」の事業基盤、粉体制御・加工、コーティング、粉碎、メカロトニクス、ソフトウェアなどの独自の技術基盤、そして幅広い地域をカバーする事業ネットワークを有しております。

『ONE FREUND』をもって、事業部門間やグループ全社間が連携し、グローバルな視点での事業展開をより積極的に推進することは、『創造力で未来を拓く』こと、「世界中の人々の医療と健康の未来に貢献」することへの大切な一歩と言えます。

株主の皆さまには、新たな成長に挑戦する当社グループを変わらずご支援・ご鞭撻くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

決算ハイライト*



*当社連結子会社であるFREUND-VECTOR CORPORATION及びフロイント・ターボ株式会社は、決算期変更により2017年2月期においては、2016年1月1日から2017年2月28日までの14ヵ月を対象としております。

次世代錠剤印刷装置 (検査機能搭載型)

「TABREX Rev.」

(タブレットス・レボ)

当社が業界に先駆けて錠剤印刷機装置を開発したのは2013年。その後、錠剤表面印刷技術へのニーズの高まりに伴い、印刷機や検査装置の関連企業がインクジェット方式の錠剤印刷装置を市場に投入し始めました。開発のトレンドは印刷処理能力増強にありましたが、お客様の声に耳を傾けると、「小規模生産や低利益率の錠剤に対応できない」という異なるニーズが見えてきました。

基本コンセプト・基本構造の抜本的見直し

このようなお客様の声に応えるためには、「低コスト」で「安定的」に「多種多様な種類の錠剤」に対応できる印刷装置が必要でした。このため、第2世代となる「TABREX Rev.」では柔軟な生産量への対応を基本コンセプトとし、業界初のモジュラー方式を採用いたしました。

基本構造の錠剤搬送方式も徹底的に見直しました。画像が問題なく取り込めることから、第1世代では錠剤検査機で一般的なベルト搬送方式を採用しましたが、これにインクジェッ

ト印刷技術を付加したところ、印刷精度の向上が難しいという技術的問題が発生しました。

そこで当社は、独自の両面同時印刷可能なディスク搬送方式を考案するとともに、検査機能の装備など新たな開発を進めました。この開発は10件以上の特許申請につながりましたが、お客様の声当社知財の源になりました。

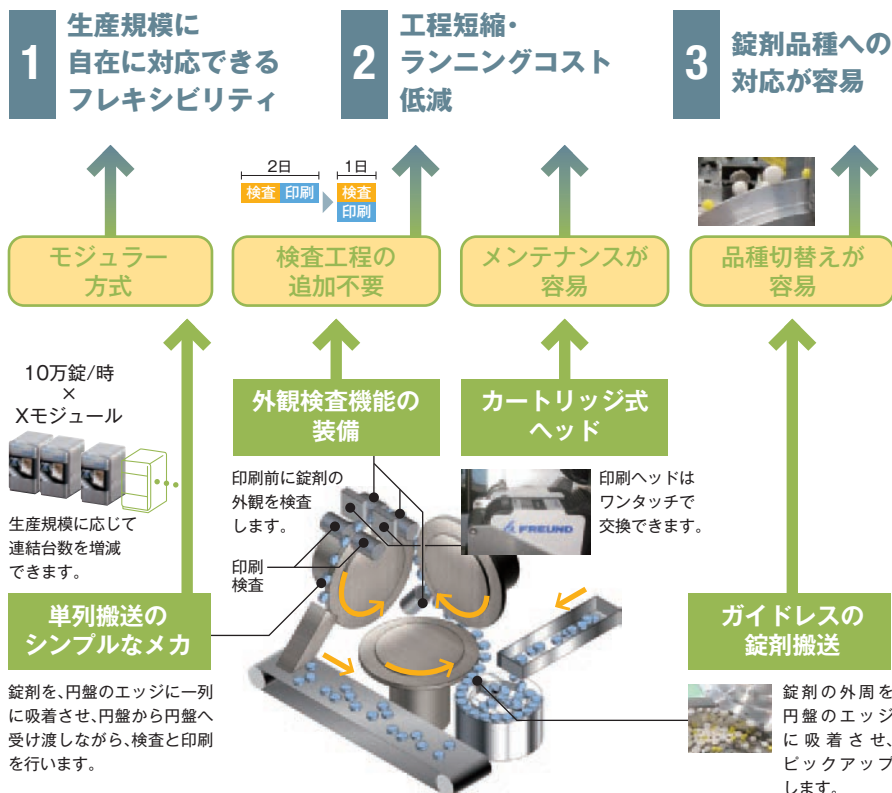
「ペンとインク」「ハードとソフト」を駆使し、新たな価値を創造

錠剤印刷機メーカーで、ペン(機械装置)とインクの両方を開発しているのは当社のみです。インクの開発は、当社化成品の開発部隊が専門メーカーと共同で進めています。「TABREX Rev.」では、使うインクを小分けにできるワンタッチ方式のインクカートリッジを採用し、インク交換時の洗浄作業を不要にしたり、色の変更を容易にするなどの差別化につなげております。

さらに、「ハード(製品群)とソフト(製剤技術)」の融合を通じ、割線内や帯部への印刷、多色印刷、QRコード印刷など、錠剤印刷技術の強化も進めております。

コンセプトを刷新し、錠剤印刷装置の基本能を徹底的に見直すことから誕生した「TABREX Rev.」。その開発を支えてきたのは、あらゆる錠剤への印刷を可能にし、世界中の調剤過誤防止に貢献したいとのエンジニアたちの強い思いです。

形状や大きさが大きく異なる錠剤に対する印刷テストの引き合いが増えています



医薬品用添加剤事業における 新たな取り組み

フロイント産業の医薬品用添加剤事業では、自社の製品群（ハード）を使いこなして積み上げてきた製剤技術（ソフト）に基づく自社生産はもちろん、「ハードとソフト」の融合を通じた新規事業モデルの立ち上げを目指しています。



添加剤生産・技術開発の要所である浜松事業所

特に口腔内崩壊錠（以下「OD錠」）に関し、継続的に実習講習会を開くなどして市場開拓に努めてきた結果、OD錠関連製品やその製剤技術に関する当社への市場認知が高まってきました。

近年、GE医薬品メーカーによる差別化戦略の一環でOD錠の採用が進んでいることから、国内需要に伸びはないものの、球形顆粒「ノンパレル」シリーズや直接打錠（以下「直打」）用賦形剤「グラニュートール」など、当社のOD錠関連事業は好調に推移しております。

新規事業モデルによる OD錠市場のさらなる開拓

このような流れの中で、当社は添加剤生産、技術開発の要所である浜松事業所の資源を有効活用するための事業モデル

の確立・強化を目指しております。

そのヒントになるのが、2013年に信越化学工業株式会社（以下「信越化学」）と共同開発したOD錠向け直打用賦形剤「SmartEx」です。この製品は、複数の化合物を特殊な加工によって複合化した添加剤で、高い保存安定性が特徴です。このプロジェクトでは、当社が製造を、信越化学が販売を担うという、新たな協業モデルにチャレンジいたしました。

「ハードとソフト」の融合を付加価値の高い製品化につなげるため、今後は原料メーカーとの共同研究を視野に入れるとともに、信越化学とのプロジェクトのように、新製品の共同開発を通じて製薬メーカーから一部製造工程を受託する事業モデルの強化を計画しております。

浜松事業所でのGMP管理体制を強化

当社の製剤技術がお客様の差別化につながる製品開発を支援し、当社独自の生産技術がお客様の競争力強化につながる——そのようなオーダーメイド型受託生産事業を展開するには、従前以上にGMP（Good Manufacturing Practice：適正製造規範[®]）の管理が重要になります。

2015年秋より、初の一部工程受託生産が始まりました。受託生産開始に当たっては、県によるGMP適合性調査を経て、関連する生産ラインの承認を取得いたしました。この承認取得を契機に、お客様によるGMP監査を積極的に受けるなど、新規事業モデル推進のための体制の整備・強化を進めております。

※米食品医薬品局が1938年の連邦食品・医薬品・化粧品法に基づき定めた医薬品等の製造品質管理基準。

新たな グローバル戦略 をスタート

米国医薬情報サービス大手のIMSヘルスの「世界の医薬品市場予測(～2021年)」によりますと、グローバル市場における2015年から2016年にかけての医薬品支出の成長率は約9%で、2016年の支出規模は1兆1,046億ドルでした。

医薬品支出は5年後の2021年には約1兆5,000億ドルまで拡大する見通しですが、この間の年平均成長率は4～7%に鈍化する見込みとなっております。

その間の成長をけん引するのは、先進国においてはオリジナルブランド医薬品であり、新興国ではGE医薬品であると見込まれております。

このような環境のもと、当社グループのこれまでのグローバル展開は、医薬品分野の機械装置を主力に、アジアエリアはフロイント産業(以下「F産業社」)が、北米・中南米・欧州・中東エリアはFREUND-VECTOR社(以下「FV社」)が中心となり推進してまいりましたが、『ONE FREUND』の価値観のもと、日本市場はF産業社が、それ以外のグローバル市場をグループ一丸となって開拓する事業戦略に移行すべく、検討しております。

加えて、医薬品分野の添加剤事業や非医薬分野の機械事業など、新たな市場開拓にも『ONE FREUND』のもと、取り組んでまいります。



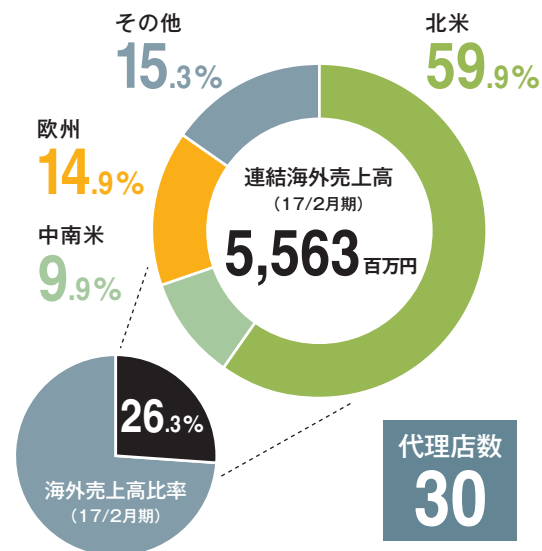
当社グループでは、代理店網強化によるマーケティング拠点の増強、主要エリアにおけるデモセンターやラボの拡充により、市場ニーズ、お客様ニーズに沿った事業展開を進めております。FV社が展開する北米・中南米・欧州・中東エリアでは、ジェネリック医薬品メーカーが多く存在する欧州・中東エリアでの販売を強化すべく、伊ミラノのデモセンターにラボを設置しております。一方、F産業社が担当するアジアエリアでは、戦略地域をインド、中国・台湾及び韓国に絞り込み、同地域での代理店網の整備、市場拡大を進めております。

アジアエリア

アジアでは、インド周辺、韓国、中国・台湾、その他東南アジアの4エリアで代理店を展開しております。インドでは先進国への医薬品の輸出強化という国策も手伝い、海外競合メーカーも事業を強化しておりますが、当社グループも、現地の代理店との連携強化やラボ拠点の設置、一部現地での製造も視野に入れ、事業展開を加速してまいります。また、既に開発した造粒コーティング装置「Granurex(グラニュレックス)」のアジア版を軸に、同エリアでの営業活動を強化しております。

北米・中南米・欧州・中東エリア

当期は、これまでの需要をけん引してきたブラジルが引き続き低調に推移、ヨーロッパの主要市場であるトルコも軟調に推移いたしました。米国市場が受注・販売ともに好調で、FV社の現地通貨ベースでの業績は過去最高を達成いたしました。また、伊ミラノラボにおいて人員増強を行い、欧州でのプレゼンス強化を図っております。





機械部門

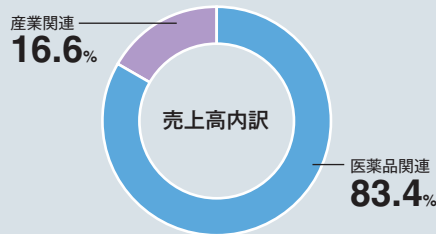
グループ会社

フロイント産業株式会社
 フロイント・ターボ株式会社
 FREUND-VECTOR CORPORATION

特徴

- コーティング装置の販売シェアは、国内で約70%。
- アジア市場に加え、米子会社による欧米展開も加速。
- 製粒技術をベースに装置開発を行う世界で唯一の企業。
- 造粒・コーティング技術に、粉碎・分級技術を融合させることで、産業機械向け装置の拡販にも注力。

医薬品、食品、ファインケミカルなどの様々な分野向けに、造粒、コーティング装置などを製造・販売

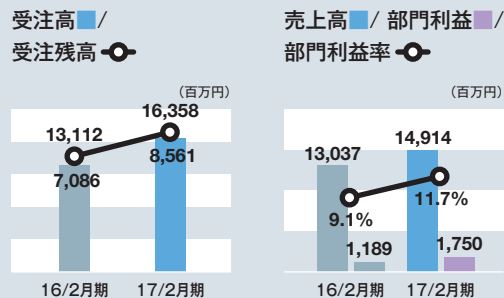


2017年2月期の概況

造粒・コーティング装置を主力とする機械部門においては、ジェネリック医薬品業界の旺盛な設備投資意欲により、受注は好調に推移し、受注残高も増加いたしました。

米子会社FREUND-VECTOR社の好調な北米売上やフロイント・ターボ社の新製品販売が寄与し、売上高が増加しました。増収効果により人件費や開発投資の増加を吸収し、部門利益も大幅増益となりました。

当社連結子会社であるFREUND-VECTOR CORPORATION及びフロイント・ターボ株式会社は、決算期変更により2017年2月期においては、2016年1月1日から2017年2月28日までの14ヵ月を対象としております。



化成品部門

グループ会社

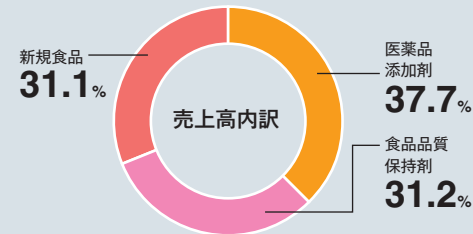
フロイント産業株式会社

特徴

- 医薬品添加剤は、GMP(*)対応設備で生産。
- 食品品質保持剤は、様々な食品の品質保持に利用され、安全な食生活に貢献。
- 造粒・コーティング技術を用い、お客様企業との共同開発で栄養補助食品やシームレスミニカプセルを商品化。

医薬品添加剤、食品品質保持剤、栄養補助食品などを製造・販売

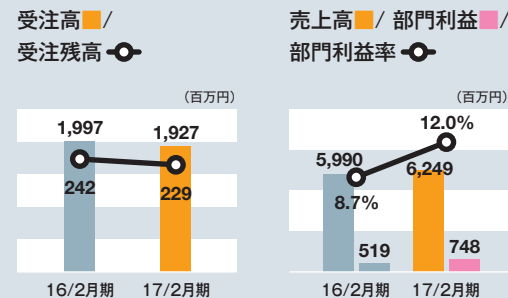
(*) GMP : Good Manufacturing Practice



2017年2月期の概況

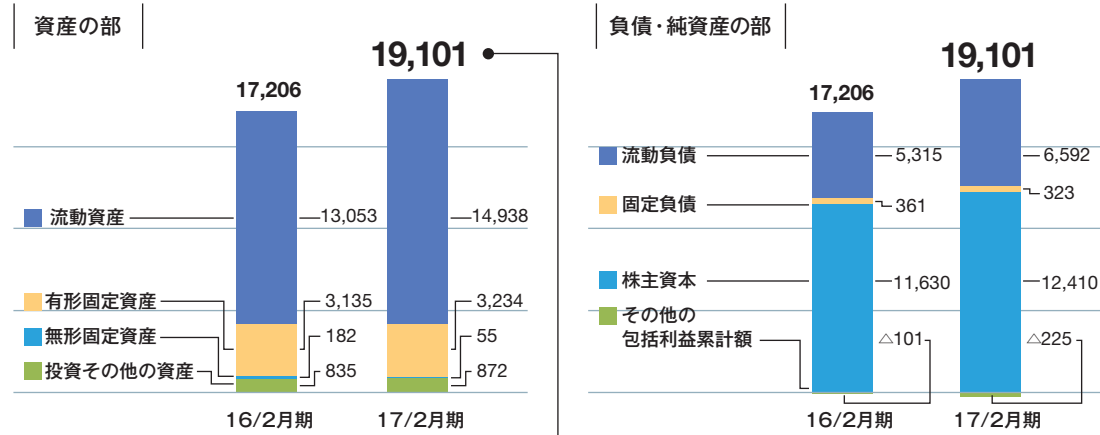
食品品質保持剤は、競争激化のなか積極的な営業展開を図りましたが、売上高・営業利益ともに減少となりました。また、当社技術を活用した栄養補助食品の売上高は増加したものの営業利益は横ばいとなりました。一方、医薬品の経口剤に使用される機能性添加剤は、ジェネリック医薬品向けを主体に好調を維持し、売上高、営業利益ともに増加となりました。

この結果、部門利益が増加し、部門利益率も改善いたしました。



※当社連結子会社であるFREUND-VECTOR CORPORATION及びフロント・ターボ株式会社は、決算期変更により2017年2月期においては、2016年1月1日から2017年2月28日までの14ヶ月を対象としております。

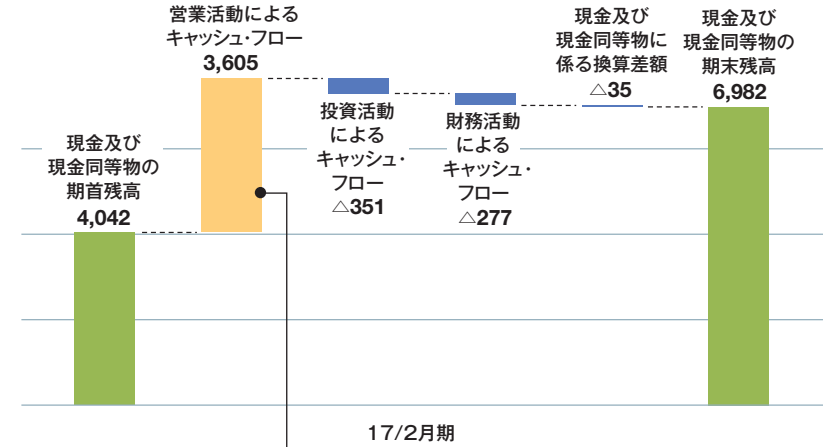
連結貸借対照表 (百万円)



POINT

受取手形及び売掛金が減少したものの、好調な受注を反映し、仕掛品や前受金が増加しました。この結果、総資産合計は前期比11.0%増加し191億1百万円となりました。

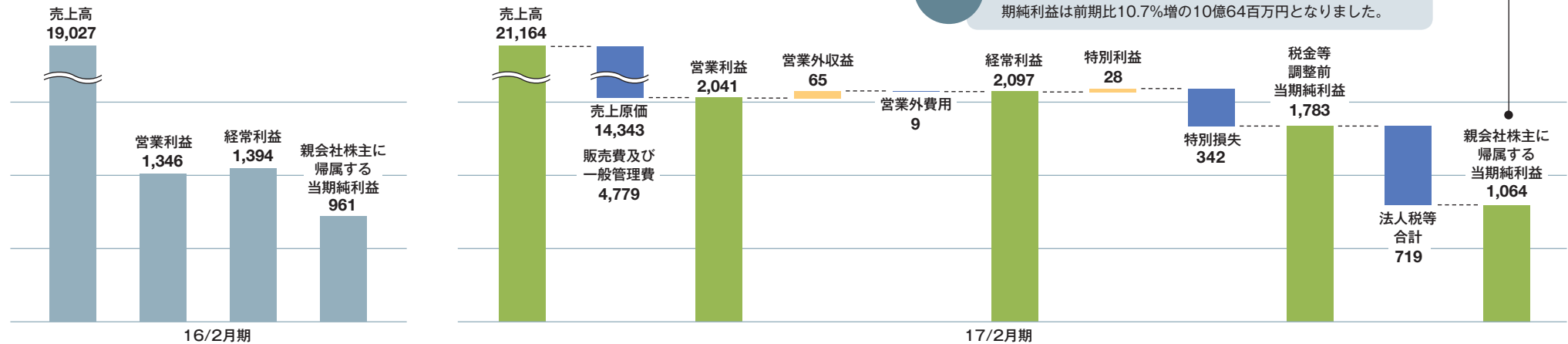
連結キャッシュ・フロー計算書 (百万円)



POINT

営業活動によるキャッシュ・フローは、主に、たな卸資産の増加や、売上債権の減少、前受金や仕入債務の増加により前期比33億15百万円の増加となりました。

連結損益計算書 (百万円)



POINT

独創的な新製品開発や顧客ニーズを捉えた営業活動を行い、積極的な新分野への展開を図った結果、親会社株主に帰属する当期純利益は前期比10.7%増の10億64百万円となりました。

(2017年2月28日現在)

株式の状況

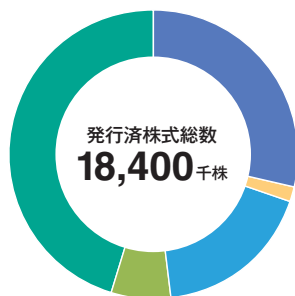
発行可能株式総数	60,000,000株
発行済株式総数	18,400,000株
株主総数	6,570名

大株主の状況 (上位10名)

	持株数(千株)	持株比率(%)
伏島靖豊	1,841	10.7
(株)エフ・アイ・エル	1,648	9.6
日本トラスティ・サービス信託銀行(株) (信託口)	1,250	7.3
日本マスタートラスト信託銀行(株) (信託口)	1,105	6.4
(株)三菱東京UFJ銀行	861	5.0
(株)三井住友銀行	744	4.3
(株)大川原製作所	673	3.9
フロイント従業員持株会	426	2.5
(株)静岡銀行	368	2.1
明治安田生命保険(株)	360	2.1

自己株式1,155千株(6.28%)を保有しております。
持株比率は自己株式1,155千株を控除して計算しております。

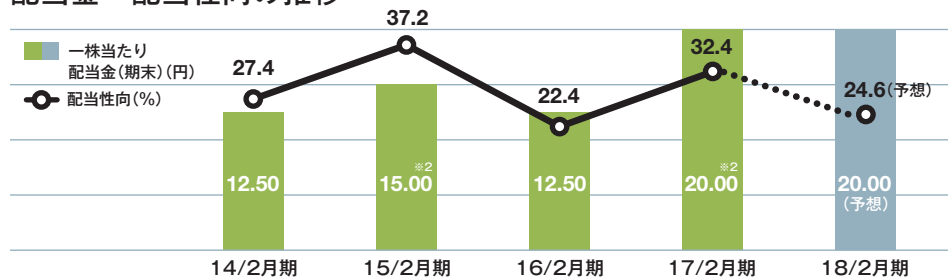
所有者別株式分布状況



- 金融機関 28.73% 5,286千株
- 金融商品取引業者 1.58% 291千株
- その他法人 17.89% 3,291千株
- 外国法人等 6.62% 1,217千株
- 個人・その他 45.18% 8,313千株

(注)自己株式は「個人・その他」に含めて記載しております。

配当金・配当性向の推移^{※1}



※1: 2016年3月1日付で、当社普通株式を1株につき2株の割合をもって分割しましたが、2014年2月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して算定しております。

※2: 2015年2月期は記念配当2.50円、2017年2月期は記念配当5.00円含む。

(2017年2月28日現在)

会社概要

商号	フロイント産業株式会社
英文商号	Freund Corporation
設立	1964年4月22日
資本金	10億3,560万円
事業の概要	医薬品、食品、化学等の業界向け造粒・コーティング装置及びプラントエンジニアリングと医薬品添加剤、食品品質保持剤、栄養補助食品等の開発・製造販売
従業員数	390名(連結)
本社所在地	東京都新宿区西新宿6丁目25-13 フロイントビル
ホームページ	http://www.freund.co.jp

名誉会長

名誉会長	伏島 靖豊
------	-------

役員

代表取締役社長	伏島 巖
常務取締役	白鳥 則生
取締役	武井 成通
社外取締役	真鍋 朝彦
社外取締役	中竹 竜二
常勤監査役	小林 正
社外監査役	飯嶋 一司
社外監査役	新里 智弘

関係会社

JAPAN



GLOBAL



FREUND-VECTOR CORPORATION
粉粒体機械装置の製造・販売

株主メモ

事業年度	3月1日から翌年2月末日まで
定時株主総会	毎年5月開催
株主確定日	定時株主総会・期末配当金 2月末日（中間配当を実施するときの株主確定日は、8月31日）
株主名簿管理人 同事務取扱場所	三菱UFJ信託銀行株式会社 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
（お問い合わせ先） 郵便物送付先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-232-711（通話料無料）
公告方法	電子公告の方法により行います。公告掲載URL（ http://www.friend.co.jp ） ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載します。

IRツール

当社ホームページ内の「株主・投資家情報」では、IR関係のニュースリリース、決算短信、フロントレポート、統合報告書、電子公告、決算説明会資料、ファクトブック、ファクトシートなどがご覧いただけます。また、このページで当社の最新のIR情報を配信する「メール配信」の登録ができますので、ぜひご登録ください。



トップページ

トップページの「株主・投資家情報」をクリックすると、最新のIR情報をご覧いただけます。



株主・投資家情報

PDF掲載資料（一例）



決算説明会資料（日・英版）



フロントレポート



統合報告書（日・英版）

詳しいIR情報は当社のホームページをご覧ください。

<http://www.friend.co.jp/ir/>

フロント産業株式会社

このフロントレポートに関するお問い合わせは下記までお願いいたします。

○コーポレート・コミュニケーション部 03(6890)0767 ○URL <http://www.friend.co.jp>

TOPICS

社内コミュニケーション 活性化への取り組み



2016年6月、本社を西新宿に移転いたしました。

本社移転を契機とする「働き方改革」の取り組みにおいては、社内のコミュニケーション活性化をコンセプトとした「コラボエリア」を館内の至る所に配しました。

なかでもbar（バー）を備えた4階フロアでは、他部署のメンバーと親睦を深め、フレキシブルに打ち合わせやミーティングを行うなど、社員が自由に使用できる場所として活用されています。

「ディスクロージャーポリシー」と「IR活動の方針」を制定

2017年3月27日に、「ディスクロージャーポリシー」と「IR活動の方針」を制定しました。全てのステークホルダーの皆さまへ会社情報の公平かつ適時適正な開示を継続的に行うとともに、会社の持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を目指し、株主・投資家の皆さまとの建設的な対話を積極的に進めます。

詳細は当社ホームページの「株主・投資家情報」→「経営方針・体制」をご覧ください。

<http://www.friend.co.jp/ir/policy/>

